



小郡市立大原中学校だより

大為小積



令和3年長月15日

第13号

校長 矢野 晴一

学校教育目標:「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」※「考動」

「うつむかずに全員で！ 全力笑顔で！」 2021 体育大会開催

9月13日(月)、本年度の体育大会が開催されました。令和3年度の体育大会は、あらゆる意味において一生忘れることのできない大会となりました。日程も内容も当初の予定から変更され、これ以上ないほど制限された中、子どもたちは決してうつむくことなく自分たち精いっぱい力を出し切り、輝きを放ってくれました。

子どもたちがめざしたスローガンは、

「繫 ～仲間と共に駆けぬけろ 全力笑顔の体育大会～」です。

繫 ～仲間と共に駆けぬけろ
全力笑顔の体育大会～

おしよせる 波をうけとめ のりこえる
全力笑顔の 花を咲かせる
晴一

このスローガンは、生徒会のリーダーたちが一人一文字ずつ作成したものです。

例年は、9月になってみんなで集まってつくりあげるものですが、本年度は2学期当初が午後自宅学習の措置をとったため、作成する時間も場所も制限されてしまいました。

でも、子どもたちはそんな状況にめげることなく、うろたえることなく、「それならば一人一文字ずつ書いてきてつなげれば可以的」と考え、それをみごとに実行してくれました。

まさに、子どもたち自身が、めざす姿を一字一字にこめ、それを「繫く」という形で創りあげたのです。もう言葉はいりません。子どもたちの「考動」に大きな感動を覚えました。

当日は、台風の影響もあり、小雨がぱらつく中、早朝から生徒会をはじめリーダーたちの力を借りてテント張り等の準備を行ってからのスタートでした。みんなで協力して短時間で準備をしてくれたおかげで、なんとか無事に開催することができました。

「本当に体育大会ができるのだろうか？」「本当にやっていいのだろうか？」

子どもたちも私たち職員も、葛藤の中で過ごしてきたような気がします。そんな中、子どもたちはたくさん制限がある中で自分たちにできることを探し、全力を尽くしてくれました。

「決して投げ出すことなく」「決してうつむくことなく」仲間とともに準備や練習に取り組む子どもたちの姿は、まさにスローガンである「繫」の姿でした。限られた中で精いっぱい努力する子どもたちの姿を見て、私は尊敬の念を抱かずにはおれませんでした。なんとすてきな子どもたちなのでしょう。輝きを放ってくれた子どもたちに心から「ありがとう」と伝えたいと思います。

本当にすてきな体育大会をありがとう！

「無観客、全体練習もたった一回だったけれど・・・」

誇り高き子どもたちの「考動」



昨年度よりもさらに大きく制限された体育大会でした・・・。緊急事態宣言が延長され、無観客での開催ということで、楽しみにしてあった保護者のみなさま、地域のみなさまにはつらい思いをさせてしまいました。この場を借りておわび申し上げます。

プログラムの内容も当初の計画から大幅に削減されました。予行練習もできませんでした。何より集まること自体が制限されているため、全体練習も50分のたった一回しか設定できませんでした。新学期当初の午後自宅学習の措置により練習時間も十分とることができなくなりました。

子どもたちは、そんな厳しい状況を正面から受けとめ、「**自分たちの体育大会を創りあげる**」ために、それぞれの係の仕事を懸命に務めてくれました。本年度は、係会や予行を行うことができず、打合せ等も不十分な状態でしたが、子どもたちは、めざす姿であるスローガンに照らしながら、リーダーを中心に、自分たちで考えながら行動しようとする姿をみせてくれました。自分の係の仕事であるなしに関わらず、体育大会を創りあげるためにすすんで動いている子どもたちの姿をみて、とても頼もしく感じました。

まさに、「**自ら考え、自ら判断し、自らにできることを自ら進んで行動しようとする**」(「考動」)ことができていました。

早朝から会場の設営を行ってくれたみなさん、放送の機械係のみなさん、アナウンスのみなさん、他にもいろいろな**見えるところや見えないところで支えてくれたみなさんのおかげで**令和3年度の体育大会ができたのだと心から実感しています。

小さいけれど大きな感動・・・その13

「この子どもたちに出会えてしあわせです」

私は、令和3年8月27日(金)のことを一生忘れないと思います。この日は、子どもたちに体育大会の延期や種目のさらなる縮小について伝えた日です。放送で伝えた後、私自身自分でも気づかないうちに沈んだ表情で廊下を歩いていたのでしょうか。すれ違いざま3年生の子どもから「**校長先生、元気出してください**」と声をかけられました。なんということでしょうか。私の方が子どもたちから励まされたのです。

その瞬間、「しょぼくっていたのは私自身じゃないか、子どもたちのほうがしっかりしている、ちゃんと前を向いて頑張っていこう」と、目の前がぱっと開けたような気持ちになりました。

「**なんと優しい子どもたちなのだろう**」「**なんとすてきな子どもたちなのだろう**」・・・あらためて、この子どもたちに出会えたことを誇りに思うとともに、しあわせに思います。子どもたちに心から「ありがとう」と伝えたいと思います。

